

外部定住欄

カンサス視察

卷之十一

市俄古地方 W R A 局副
匹田 庄太郎は十月一日
月日カニサス市を訪問
し商業及農業方面の粗
察調査を遂げた。又同地
日系人と親しく会見の
上種々懇談せり。

土地住宅取扱いは
転住所開鎖オ一番さ
はるグランダセントラ
の法律顧問レジハナン
氏は他転住所民宛に次
の如き注意を發した。
諸君が帰還せんとする
沿岸の住宅又は農園周
囲にては充分の夕暮
イムをとへねばならぬ
その理由は州法及O.P.
A法律の規定ル依ると
借地人又は住家人に之
を空けて貰ふ場合少く
共一ヶ月の余裕を与へ

日本語版
商業翼内
華府に於け
業者ニス及
言ふ日本語
トが各食堂
入手出来る
此の外市街
從事して居
関する日本
ブトもある
太郎の調査
あるが彼は
業事情を目
あると。
ウイルソン
去る火曜日

る一世の「農業事情」と
「パンフレット」で
麦転住部で
ので商業に
なる日系人には
語パンフレット
のは匹田庄
せる報告不
中西部の商
下調査中で

と語り、家に来る。横野陸文科へ朝和アシ文湖最寄代は西郷と共にテストン市ベイ一年に入校。彼女は高ライ止て活躍し、新聞多。

ストン同窓会
称すゝめで
代議入學
トボースト
の主筆樺
橋縣友市
キサス州
に出席し
ラ一大學
博士とな
成した。

ト君の同工校へ長崎に移る事ある。

ス市ノ年生永本は同級級者選舉され左辰は羅府ノタ一夫夫妻の一家はイニセペニルようカ出の朝和ノダ嬢はミ

管九西ロババ一居た子ニシニスサ息永才後 | J.R.

校舎修理
大掃除
相当損傷
が修理と
士旺日午
は父兄脚足
役舎の面目
頂きたい。
後寒さも
るから其
必至であ

すれば破損
むせ得ない
月半の機器
を運びしな
大掃除の後
前九時から
労を頼つて
を一新せ共
加はる事が
の方の運送
うる修理

さきに吉の二教師が、これまでより科学化した授業を実施する。校の中権は、吉の教諭から云つては後年の井西教師が、滞りなく補へられたが今でもあらう。

村夫人、土井が加川に帰り、今又平林に送る事にならぬ。學生生物學と課目生徒側も興味の半邊はれて此の後は幸運が持続する事が度は相当困難以上の三課外で休校するか師の見つかり

る必要あり、しばり、以上の日數を要する上
に之の交渉その他に相当の時日を要する故帰
還せんとする人は成文卑く手續きする捺注意

の朝住官
に伴はれ
農園視察
此所には
ストンよ
系人が來
ストンよ

アブレーが
てウイルソ
に出かけ左
既に比良至
り世ハ名の
住して居る
うの一立洞

藤工市に於て、日本工芸会館開幕式典が同局にて開催された。

ミイ夫人は
於てボーア
職した事も
華府の陰謀
を転する事
に赴くと同
様親頃和出

スカット 有るが、管理上に在り、此時に此身の角

と見て、鉢を
る。兩親賓
須市に永く
ら出所し、
ソリ一州ペシ
氏郎に就官
クリーブラ
ー太宰

國立文書館にて現存する文書
のうち、最も古く現存する文書は、
元和元年（1615）の御内帑金庫帳である。
この文書は、江戸幕府の財政管理に
關する重要な資料として、現在も
現存する文書の中でも最も古いものと
見なされている。

| | 各區受持 |
|------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 十 五 區 の | 23. | 5. | 區 | 32. | 1. | 2. | 3. | 4. | 各區受持 |
| | 24. | 6. | め | 33. | | | | | |
| | 25. | 7. | 校 | 40. | 及 | | | | |
| | 34. | 8. | 舍 | | | | | | |

渥美ウオル
英一郎引
葉和寺等

夕一三四區

松本屋

卷之二

七四

聖路易市

到着して
再会いた

料は省略
貢ふ。ハニ

より供給し

朗和市政參事會完

軒
住
荀

安所復乞鑑也

輿佳局督鈞發行

転住苟貞が転住

一た書物を従に

大御提示類

に調査の上之

策を講ずるだら

之を今後遠期かる

軒臣局省所者八

経済援助の努力

卷之三

新編後漢書卷之二

詫するとは云ふ

ながら復音が

始めたならば必

活費に掛ける是れ

物を賣る者

助案が設けられ

のだから、若し其

守山の理由に依

(3)

朗和市政委
東住扁
安所後と轍も
軋住局誓約履行
(方) 軋住而眞か軋住者に
上へた誓約を後に至つて履行せざる実例があつたが御提示願ひ度い
直ちに調査の上之が善後策を講ずるだらう。
但し今日迄斯かる事実
つかつた事を知らなし
軋住局安所者へ

下記よりの返
正當なる生活量
困る様な者があ
住居に適当な方
向を通じ生活を
んと最善の努力
ものである。
立退人家賊
管理部用鎖
同部が戦争終了
月繼續されると
る。吾々の計画で
三月開鎖を予定

書旨(四) おもにさへ
にさへ いは近
れば転 わけに
校清機 転往面
保証せ となす
をなす に過
圓に過 やの仕
以て終 る。お返
りであ 事は終
は東春 ては得
局の一 である
遷者に も得な

新を許可する。新を得るには誰かを許すと云ふ事はいかない。
又最上の奉仕に
へ單なる當時推
きないをして之
辛は六月末りを
了すものであ
者旅船部の總務
にして健介雅
理さるべき転任
部門として止む

本ノラス
周駄歎也
元江布谷
サエルリ一
スカ門方マハ
シテ同述曰三
氣械として國
人ナル全レ
安所前後皆水
御にては裡
子青年会ヘ文
ペーとしてト
蓮ハ仕にアフ
女は伊藤富士
である

景を侵つゝ其の後算を總て
内は政策を總て
私に實ニつて
と信してはまつた
う事を實事
の良は永、同
公末ない數日
立退方を急ぐ
うと云ふ印紙
は苦痛として
其の方針からま
き地なし寺が人
う。 う。
宮九月六日附
一巻に彼の重病
アマヤマイセ
全しましたと
や其の他の人々
禁菓を忌憚なく
ナレタ。マイヤー

